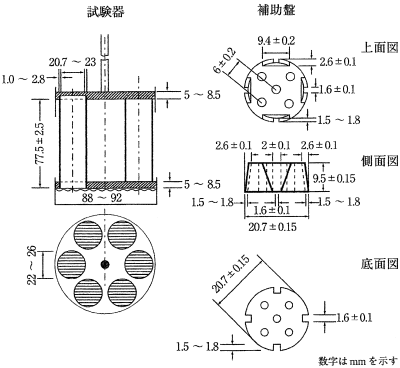
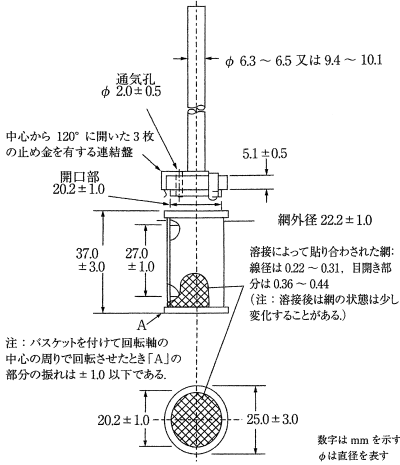


「第十七改正日本薬局方 解説書」 正 誤 表

- ・すべて、わずかに、等、かな使いについての正誤は省略する。
- ・医薬品各条の「表示量に従い」は頁として個々に入れていないが削除する。

(平成 28 年 7 月 15 日初版発行)

頁	行	誤	正
A-8	↑16	医療品各条	医薬品各条
A-14	↑2	日本薬局方の医療品	日本薬局方の医薬品
A-20	↑12	通例, その基準となる	鏡検時の数値を含め, その判断基準となる
A-20	↑10	味及び鏡検時の数値は, 適否の判定基準	味は適否の判定基準
A-28	↓13	生薬成分については適用されない	生薬成分には適用されない
A-32	↑14	製剤各条における試験法及び容器・包装に	製剤各条における試験法に
B-240	↑13	残留溶媒量(ppm) = $5\left(\frac{C}{M}\right)\left\{\frac{A_T}{A_S - A_T}\right\}$	残留溶媒量(ppm) = $5\left(\frac{C}{M}\right)\left(\frac{A_T}{A_S - A_T}\right)$
B-243	↑7	残留溶媒量(ppm) = $10\left(\frac{C}{M}\right)\left\{\frac{A_T}{A_S - A_T}\right\}$	残留溶媒量(ppm) = $10\left(\frac{C}{M}\right)\left(\frac{A_T}{A_S - A_T}\right)$
B-269	↓16	$\alpha_D^{20} - 33.0 \sim -36.0^\circ$	$\alpha_D^{20} : -33.0 \sim -36.0^\circ$
B-301	図 2.52-1	サーモグラム	熱曲線
B-356	↑3	d_D^{20} に 0.99718 を乗ずれば	d_D^{20} に 0.99820 を乗ずれば
B-365	図 2.58-2	ある物質の五つの異なる固体相	ある物質の異なる五つの固体相
B-411	↑10~9	蛍光検出又は UV 検出法	蛍光検出法又は UV 検出法
B-413	↓15	泳動液の pH 及び成分は	泳動液の pH 及び組成は
B-453	↓6	試料の物理的特性によって選択する	試料の物理的特性に応じて選択する
B-465	↑2	取着又は水の取込みは	取着又は水の取込みについては
B-466	図 3.05-1	水収着測定用装置	水分収着測定用装置
B-466	↑13	速度が遅いこと	速さが遅いこと
B-542	↓8	ゲンタマイシン硫酸塩 (硫酸ゲンタマイシン)	ゲンタマイシン硫酸塩
B-584	↓9	試験試料の採取と調製	試料の採取と調製
B-584	↓11~12	次の方法によって試料を採取し	次の方法によって採取し
B-596	↑9	5 g 塩化ナトリウム含有	5.0 g 塩化ナトリウム含有

頁	行	誤	正
B-635	図 6.09-1 差し替え		 <p>試験器</p> <p>補助盤</p> <p>上面図</p> <p>側面図</p> <p>底面図</p> <p>数字は mm を示す</p>
B-643	図 6.10-1 差し替え		 <p>φ 6.3 ~ 6.5 又は 9.4 ~ 10.1</p> <p>φ 20.2 ± 1.0</p> <p>φ 22.2 ± 1.0</p> <p>網外径 22.2 ± 1.0</p> <p>溶接によって貼り合わされた網: 線径は 0.22 ~ 0.31、目開き部 分は 0.36 ~ 0.44 (注: 溶接後は網の状態は少し 変化することがある。)</p> <p>注: バスケットを付けて回転軸の 中心の周りで回転させたとき「A」の 部分の振れは ± 1.0 以下である。</p> <p>数字は mm を示す φ は直径を表す</p>

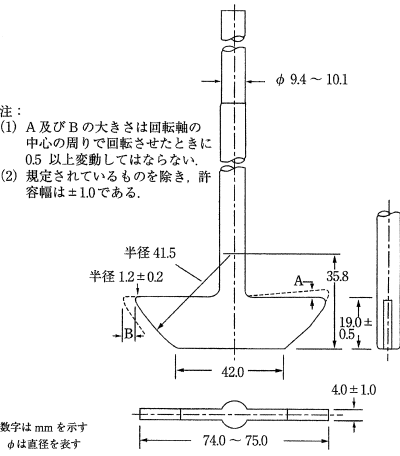
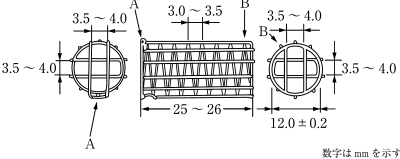
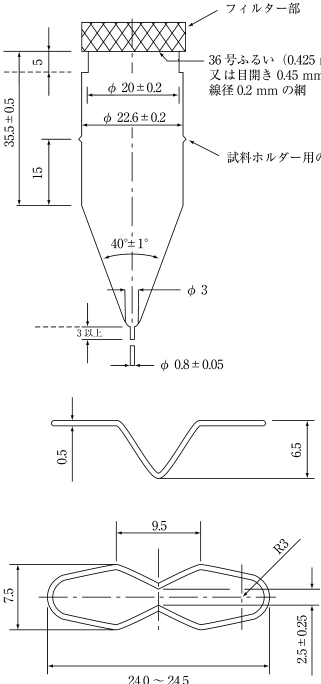
頁	行	誤	正
B-644	図 6.10-2 差し替え		 <p>注： (1) A 及び B の大きさは回転軸の中心の周りで回転させたときに 0.5 以上変動してはならない。 (2) 規定されているものを除き、許容幅は ±1.0 である。</p> <p>数字は mm を示す φ は直径を表す</p>
B-645	図 6.10-2a 差し替え		 <p>数字は mm を示す</p> <p>A : 耐酸性針金の留め金 B : 耐酸性針金の支柱</p>

図 6.10-2 装置 2、回転軸及びパドルの攪拌翼部分

図 6.10-2a シンカーの仕様例

頁	行	誤	正
B-646	図 6.10-3 差し替え		 <p>数字は mm を示す φ は直径を表す</p> <p>(上) 錠剤及びカプセル用の大型フローセル (下) 大型フローセル用の錠剤ホルダー (他に記載がない場合には寸法はmmで表している。)</p>
図 6.10-3 装置 3			
B-652	↑ 8	試験液を攪拌しながら 41℃ に加温し、直ちに吸引下攪拌しながら	試験液をかき混ぜながら 41℃ に加温し、直ちに吸引下かき混ぜながら
B-664	↑ 13	2-にプタノン若しくは	2-プタノン又は
B-674	↑ 6	図 6.12-4 に示す。	図 6.13-4 に示す。
B-693	↓ 17	塩化ビニル標準液 50 μL を加えた後、	塩化ビニル標準液 50 μL を正確に加えた後、
B-713	↓ 16 右	装置適合性能確認用スルファピリジン標準品	装置適合性確認用スルファピリジン標準品
B-715	↓ 11 右	システム適合性試験用モンテルカストラセミ体標準品	システム適合性試験用モンテルカストラ標準品
B-715	↓ 17 右	システム適合性試験用モンテルカストラ標準品	システム適合性試験用モンテルカストラセミ体標準品
B-749	↓ 2	三水物	三水和物
B-806	↑ 4	メタノール, 200 mL	メタノール, 500 mL
B-815	↑ 12	よく混和する	よく混合する

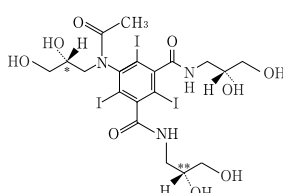
頁	行	誤	正
B-829	↓16	〔K 8088, 硫黄, 特級〕	〔K 8088, 特級〕
B-830	↓17	<i>N</i> -2-ヒドロキシエチルピペラジン- <i>N'</i> -2-エタンスルホン酸	<i>N</i> -2-ヒドロキシエチルピペラジン- <i>N'</i> -2-エタンスルホン酸
B-835	↓9	本品は水又は酢酸	水又は酢酸
B-848	↓12	10 μL	10 mL
B-848	↑4	30 分間過温した	30 分間加温した
B-866	↓14	水, 核酸分解酵素を参照.	水, 核酸分解酵素不含を参照.
B-867	↓1, ↓2	-d ₄	-d ₄
B-874	↑4	カルボシステイン(C ₅ H ₉ NO ₄ S : 179.19)	カルボシステイン(C ₅ H ₉ NO ₄ S)
B-890	↓15	C ₆ H ₁₁ O ₇	C ₆ H ₁₁ NaO ₇
B-904	↓8	10000 単位以上に中和するもの	10000 単位以上を中和するもの
B-911	↑4	吸水スペクトル	吸収スペクトル
B-913	↑14	標準溶液	標準試液
B-913	↑13~12	メタノールを加えて	メタノールに溶かして,
B-913	↑10	標準溶液	標準試液
B-913	↑4	標準溶液	標準試液
B-928	↑1	標準溶液 10 μL につき,	標準溶液 10 μL ずつを正確にとり,
B-942	↑2	追加	5 % ジフェニル・95 % ジメチルポリシロキサン, ガスクロマトグラフィー用 ガスクロマトグラフィー用に製造されたもの.
B-944	↓6	4,4'-ジフルオロベンゾフェノン 白色の結晶性の粉末で, においはない.	4,4'-ジフルオロベンゾフェノン C ₁₃ H ₉ F ₂ O 白色の結晶性の粉末である.
B-944	↓17	C ₆ H ₂ Br ₂ ClNO	C ₆ H ₂ Br ₂ ClNO
B-947	↑8	水分 <2.48> 0.2 % 以下 (0.1 g, 電量滴定法)	削除
B-948	↓13	挿入	水分 <2.48> 0.2 % 以下 (0.1 g, 電量滴定法)
B-962	↓8	次の酢酸エチル/ヘキサン混液	次に酢酸エチル/ヘキサン混液
B-963	↓14	またシラスタチンの理論段数	またシラスタチンのピークの理論段数
B-968	↑13	0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム 1 mL	0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム液 1 mL
B-969	↓9	薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを	薄層クロマトグラフィー用シリカゲル(蛍光剤入り)を
B-969	↓20~21	〔医薬品各条, 「スコポラミン臭化水素酸塩水和物」ただし, 次の試験に適合す	〔医薬品各条, 「スコポラミン臭化水素酸塩水和物」〕又は次の試験に適合する

頁	行	誤	正
		るもの].	もの.
B-974	↓12	スルピリン水和物定量用	スルピリン水和物, 定量用
B-974	↑4	塩酸プロカテロール	プロカテロール塩酸塩
B-977	↑8	セチルピリジニウム塩化物一水和物	セチルピリジニウム塩化物一水和物
B-979	↑13~12	pH を 8.8 に調整し,	pH 8.8 に調整し,
B-979	↑9	pH を 8.0 に調整し,	pH 8.0 に調整し,
B-979	↑5, ↑3	pH を 3.0 に調整し,	pH 3.0 に調整し,
B-981	↑18	1.0 mg を	1 mg を
B-982	↓3	水 10 mL に溶かすとき	水 10 mL を加えて溶かすとき
B-988	↓4	本品 0.05 g を	本品 50 mg を
B-988	↑18	白色の結晶性粉末で,	白色の結晶性の粉末で,
B-988	↑6~5	試験を行う. それぞれの	試験を行い, それぞれの
B-989	↓8	溶媒ピークの後から	溶媒のピークの後から
B-991	↑10	脱水物に対し ($C_{12}H_{18}ClNO$)	脱水物に対し, ツロブテロール ($C_{12}H_{18}ClNO$)
B-995	↓3	オキシコドン塩酸塩, 定量用	オキシコドン塩酸塩水和物, 定量用
B-995	↓11	パパベリン, 定量用	パパベリン塩酸塩, 定量用
B-995	↑16	<i>dl</i> -メチルエフェドリン塩酸塩, 定量用を参照	<i>dl</i> -メチルエフェドリン塩酸塩 を参照
B-1000	↓11	メチルドパ, 定量用	メチルドパ水和物, 定量用
B-1001	↓15	純度試験の操作条件に	純度試験の試験条件に
B-1016	↓8	銅溶液, アルカリ性 銅試液, タンパク質含量試験用アルカリ性 を参照.	削除
B-1016	↑2	99 % 以上.	99.0 % 以上.
B-1017	↑12	pH を 3.2 に調整する.	pH 3.2 に調整する.
B-1036	↓17~18	ウシ血清加イーグル最小必須培地ニュートラルレッド溶液	ウシ血清加イーグル最小必須培地にニュートラルレッド溶液
B-1068	↓12~13	類縁物質の操作条件	類縁物質の条件
B-1074	↓2	融点 <2.60> 1109°C	融点 : 1109°C
B-1076	↑13~12	エタノール (95) 及びアセトン	エタノール (95) 又はアセトン
B-1077	↓16	フェノール塩酸試液 フェノール 0.2 g を 6 mol/L 塩酸試液 10 mL に溶かす.	削除

頁	行	誤	正
B-1078	↓17	pH を 4.7 に調整する.	pH 4.7 に調整する
B-1080	↑17	「コウベイ」の確認試験を準用し、	「コウベイ」の確認試験(2)を準用し、
B-1088	↓13	塩化コリン	コリン塩化物
B-1088	↓15	塩酸ピリドキシン	ピリドキシン塩酸塩
B-1088	↓16	硫酸カナマイシン	カナマイシン硫酸塩
B-1095～ 1096	↑2	プロメタジン塩酸塩、定量用 $C_{17}H_{20}N_2$ S · HCl [医薬品各条、「プロメタジン 塩酸塩」ただし、乾燥したものを定量す るとき、プロメタジン塩酸塩 ($C_6H_{20}N_2$ S · HCl) 99.0 % 以上を含むもの]	削除
B-1096	↓8～14	プロモクレゾールグリン・水酸化ナトリ ウム・エタノール試液 プロモクレゾー ールグリーン 50 mg を 0.1 mol/L 水酸 化ナトリウム液 0.72 mL 及びエタノー ール(95) 20 mL に溶かし、水を加えて 100 mL とする。 感度試験 本品 0.2 mL に新たに煮 沸して冷却した水 100 mL を加えると とき、液の色は青色である。この液に液の 色が黄色に変化するまで 0.02 mol/L 塩 酸を加えるとき、その量は 0.2 mL 以 下である。 変色点 pH 3.6 (黄色) ～ pH 5.2 (青色)	プロモクレゾールグリン・水酸化ナトリ ウム・エタノール試液 プロモクレゾー ールグリーン・水酸化ナトリウム・エタノ ール試液を参照。
B-1096	↑8	プロモクレゾールグリーン・水酸化ナト リウム・エタノール試液 の項目に追加	感度試験 本品 0.2 mL に新たに煮 沸して冷却した水 100 mL を加えると とき、液の色は青色である。この液に液の 色が黄色に変化するまで 0.02 mol/L 塩 酸を加えるとき、その量は 0.2 mL 以 下である。 変色点 pH 3.6 (黄色) ～ pH 5.2 (青色)
B-1097	↑5	pH を 7.0 に調整する.	pH 7.0 に調整する.
B-1098	↓19	本品及び各基準溶液 10 μ L について確 認試験に準じて	本品及び各基準溶液 10 μ L について 「エポエチンアルファ(遺伝子組換え)」 の分子量に準じて
B-1098	↑8	標準溶液から得た泳動帯の	標準溶液から得たバンドの
B-1100	↓5	本品 1.0 mg をとり、	本品 1 mg をとり、
B-1102	↑2	1-ヘキサノール $C_6H_{14}O$ 無色透明の	1-ヘキサノール $C_6H_{14}O$ 無色透明の

頁	行	誤	正
B-1103	↓1	液である。 比重 d_{20}^{20} : 0.816 ~ 0.821	液である。比重 d_{20}^{20} : 0.816 ~ 0.821 削除
B-1104	↓7~8	検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は、生薬試験法〈5.01〉の純度試験(2)の試験条件を準用する。	検出感度及び面積測定範囲以外の試験条件は、生薬試験法〈5.01〉の4.純度試験4.3.の試験条件を準用する。
B-1119	↑17	ポリアクリルアミドゲル、インターフェロンアルファ用 分離ゲルのアクリルアミド濃度を15%としたポリアクリルアミドゲル。	削除
B-1124	↓12	白色～微褐色の液体又は固体である。	白色～微褐色の固体又は無色～微褐色澄明の液体である。
B-1151	↑10~9	精製硫酸 1000 mL	硫酸 1000 mL
B-1168	↑14~13	リン酸水素二ナトリウム・クエン酸緩衝液 pH 5.4	リン酸水素二ナトリウム・クエン酸緩衝液, pH 5.4
B-1176	↓6	ロスマリン酸、定量用 ロスマリン酸、薄層クロマトグラフィー用。	ロスマリン酸、定量用 $C_{18}H_{16}O_8$ ロスマリン酸、薄層クロマトグラフィー用。
B-1190	↓16	清浄な室で乾燥して製する。共栓瓶に入れ、光及び湿気を避けて保存する。	清浄な室で乾燥して製する。 貯法 共栓瓶に入れ、光及び湿気を避けて保存する。
C-28	↑9	次の方法により含量均一性試験を行うとき、適合する。	質量偏差試験又は次の方法による含量均一性試験のいずれかを行うとき、適合する。
C-47	↑14	分包したものは、	分包品は、
C-81	↓9~10	メタリン酸溶液(1→50) 50 mL を加え、0.05 mol/L ヨウ素液で	メタリン酸溶液(1→50) 50 mL を加え、よくかき混ぜ、0.05 mol/L ヨウ素液で
C-81	↓18	水に溶かし、正確に 50 mL とする。その液 5 mL を正確にとり、内標準溶液 20 mL を正確に加え、標準溶液とする。	内標準溶液に溶かし、正確に 50 mL とする。この液 5 mL を正確にとり、内標準溶液を加えて正確に 20 mL とし、標準溶液とする。
C-85	↓11	硫酸水素テトラブチルアンモニウム	テトラブチルアンモニウム硫酸水素塩
C-114	↓1	塩酸ヒドロキシアンモニウム	塩化ヒドロキシルアンモニウム
C-127	↓19	塩酸 4-アミノフェノール	4-アミノフェノール塩酸塩
C-153	↓17, ↑6	定量用塩酸アゼラスチン	定量用アゼラスチン塩酸塩
C-154	↓10, ↑16	定量用塩酸アゼラスチン	定量用アゼラスチン塩酸塩
C-165	↑17	硫酸水素テトラブチルアンモニウム	テトラブチルアンモニウム硫酸水素塩
C-184	↑4	気密容器。	密封容器。本品は着色容器を使用するこ

頁	行	誤	正
			とができる.
C-196	↑16	適当の稠度とした後	適切な稠度とした後
C-203	↑13, ↑5	定量用塩酸アプリンジン	定量用アプリンジン塩酸塩
C-204	↓3, ↑9, ↑2	定量用塩酸アプリンジン	定量用アプリンジン塩酸塩
C-211	↓9, ↑18	定量用塩酸モルヒネ	定量用モルヒネ塩酸塩水和物
C-214	↑10, ↑4	定量用塩酸モルヒネ	定量用モルヒネ塩酸塩水和物
C-214	↑3	塩酸エチレフリン溶液	エチレフリン塩酸塩溶液
C-217	↓4, ↓10	定量用塩酸モルヒネ	定量用モルヒネ塩酸塩水和物
C-217	↓11	塩酸エチレフリン溶液	エチレフリン塩酸塩溶液
C-218	↓9	臭化水素酸ホマトロピン	ホマトロピン臭化水素酸塩
C-221	↓17, ↑13	定量用塩酸モルヒネ	定量用モルヒネ塩酸塩水和物
C-221	↑12	塩酸エチレフリン溶液	エチレフリン塩酸塩溶液
C-225	↓10, ↓16	定量用塩酸モルヒネ	定量用モルヒネ塩酸塩水和物
C-225	↑19	塩酸エチレフリン溶液	エチレフリン塩酸塩溶液
C-233	↓6	塩酸 (2-クロロエチル)ジエチルアミン	2-クロロエチルジエチルアミン塩酸塩
C-239	↓10	次の方法により含量均一性試験を行うとき、適合する.	質量偏差試験又は次の方法による含量均一性試験のいずれかを行うとき、適合する.
C-239	↓14, ↑10	定量用塩酸アミオダロン	定量用アミオダロン塩酸塩
C-240	↓16, ↑11, ↑4	定量用塩酸アミオダロン	定量用アミオダロン塩酸塩
C-244	↓15	硫酸カナマイシン	カナマイシン硫酸塩
C-253	↓1	適用 (→ アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン注射液)	適用 逆行性尿路撮影の目的で用いる. (→ アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン注射液)
C-279	↑11	製剤均一性 <6.02> 質量偏差試験を行うとき、適合する (T : 105.0 %). (注1) 乾燥減量 <2.41> 5.0 % 以下 (0.3 g, 減圧, 60 °C, 3時間). (注2)	乾燥減量 <2.41> 5.0 % 以下 (0.3 g, 減圧, 60 °C, 3時間). (注1) 製剤均一性 <6.02> 質量偏差試験を行うとき、適合する (T : 105.0 %). (注2)
C-280	↓8	注1	注2
C-280	↓12	注2	注1 注2 の前に入れる
C-309	↑7, ↑1	定量用塩酸アモスラロール	定量用アモスラロール塩酸塩
C-310	↓8, ↓16	定量用塩酸アモスラロール	定量用アモスラロール塩酸塩
C-311	↓3, ↓11	定量用塩酸アモスラロール	定量用アモスラロール塩酸塩

頁	行	誤	正
C-352	↑2	本品は水、エタノール（95）にほとんど溶けない。	本品は水又はエタノール（95）にほとんど溶けない。
C-357～ 358	↑1	確認試験 定量法で得た試料溶液につき、紫外可視吸光度測定法〈2.24〉により吸収スペクトルを測定するとき、波長 221 ～ 225 nm に吸収の極大を示す。 〔注1〕	確認試験 (1) 定量法で得た試料溶液につき、紫外可視吸光度測定法〈2.24〉により吸収スペクトルを測定するとき、波長 221 ～ 225 nm に吸収の極大を示す。 〔注1〕 (2) 本品を粉末とし、「アルジオキサ」0.2 g に対応する量を取り、希塩酸 10 mL を加えて 5 分間煮沸し、ろ過する。冷却したろ液はアルミニウム塩の定性反応〈1.09〉を呈する。
C-358	↑7	アルジオキサ (C ₄ H ₇ AlN ₄ O ₅) の表示量に対する溶出率 (mg)	アルジオキサ (C ₄ H ₇ AlN ₄ O ₅) の表示量に対する溶出率 (%)
C-365	↑7	(1 g, シリカゲル, 減圧, 4 時間)	(1 g, 減圧, シリカゲル, 4 時間)
C-377	図中	RVA・RVB 1 : RVA・RVB 2 :	RVA-RVB 1 : RVA-RVB 2 :
C-387	↓6	pH を 10.5 に調整し、	pH 10.5 に調整し、
C-391	↓16	第 1 法により試験を行うとき、適合する。	試験を行うとき、適合する。
C-391	↑14	試験溶液	試料溶液
C-405	↓16	次の方法により含量均一性試験を行うとき、適合する。	質量偏差試験又は次の方法による含量均一性試験のいずれかを行うとき、適合する。
C-425	↓12	Sodium Benzoate 〔NF〕 〔USP〕 〔EP〕 ,	Sodium Benzoate 〔NF〕 〔EP〕 ,
C-449	↑17	各々のピーク面積は	ピーク面積は、
C-494	↑2	水を加えて正確に 50 mL とする。この液 5 mL を正確に量り、	削除
C-510	イオヘキソール 構造式の ** の位置を修正する		
C-517	↑12～11	30 分間加熱し、	30 分間煮沸し、
C-584	↑16	〔注4〕	〔注3〕
C-599	↓11	50 μm の	5 μm の
C-653	↓3	定量用塩酸イミダプリル	定量用イミダプリル塩酸塩

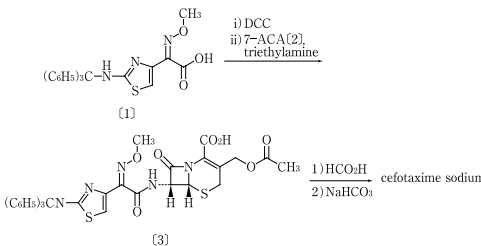
頁	行	誤	正
C-668	↓18	含量均一性試験を行うとき、適合する。 適合する	含量均一性試験を行うとき、適合する
C-693	↑1	その他の目的物質関連不純物	その他の目的物質由来不純物
C-694	↑5	インスリンヒト標準品の量 (mg)	インスリンヒト標準品の秤取量 (mg)
C-725	↓3, ↓5	泳動帯	バンド
C-732	↓13	試料溶液とする。	試料溶液を調製する。
C-734	↓3	その平均値を本品 1 mL 中の	その平均値から本品 1 mL 中の
C-792	製法 式中	ecothiopate (echothiophate) iodide	ecothiopate iodide
C-816	↓9	残留物に酢酸 (100) 20 mL に溶かし、	残留物を酢酸 (100) 20 mL に溶かし、
C-831	↑11	d_{4}^{25} : 0.860027 ~ 0.87264	d_{4}^{25} : 0.86027 ~ 0.87264
C-833	↓1	医薬品各条の部 消毒用エタノールの条 に次の二条を加える。	削除
C-882	↑7	定量用塩酸エチレフリン	定量用エチレフリン塩酸塩
C-883	↓1, ↓8, ↑12, ↑5	定量用塩酸エチレフリン	定量用エチレフリン塩酸塩
C-884	↓6	硫酸バメタン 4 mg 及び塩酸エチレフリン 4 mg を、	バメタン硫酸塩 4 mg 及びエチレフリン塩酸塩 4 mg を、
C-928	↓9	マレイン酸エナラプリル	エナラプリルマレイン酸塩
C-946	↓3	0.1 mol/L 塩酸試液 $\frac{V}{10}$ を加え、	0.1 mol/L 塩酸試液 $\frac{V}{10}$ mL を加え、
C-948	↑4~3	別に規定する方法により再結晶し、	遮光した容器を用いて以下の操作を行う。本品 0.1 g にメタノール 40 mL を加え、水浴中で加温して溶かし、温時ろ過する。ろ液を氷冷して再結晶し、
C-949	↑10	(3) 残留溶媒 別に規定する。	削除
C-952	↓11	次の方法により含量均一性試験を行うとき、適合する。	質量偏差試験又は次の方法による含量均一性試験のいずれかを行うとき、適合する。
C-966	↓1	定量用塩酸エフェドリン 1 mg 及び硫酸アトロピン 4 mg を	定量用エフェドリン塩酸塩 1 mg 及びアトロピン硫酸塩水和物 4 mg を
C-970	↑8~7	定量用塩酸エフェドリン	定量用エフェドリン塩酸塩
C-971	↓12	定量用塩酸エフェドリン	定量用エフェドリン塩酸塩
C-974	↓1	定量用塩酸エフェドリン	定量用エフェドリン塩酸塩
C-977	↑4~3	(0.25 g, アセトニトリル, 25 mL, 100 mm)	(乾燥物に換算したもの 0.25 g, アセトニトリル, 25 mL, 100 mm)

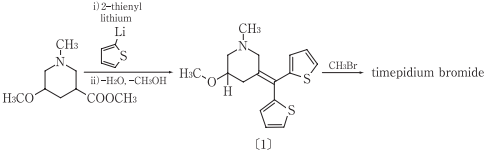
頁	行	誤	正
C-979	↓9	エプレレノン標準品の秤取量	乾燥物に換算したエプレレノン標準品の秤取量
C-979	↓17	メタノール 60 mL	液体クロマトグラフィー用メタノール 60 mL
C-984	↑7~6	次の条件で液体クロマトグラフィー〈2.01〉によりエプレレノンのピーク面積	次の条件で液体クロマトグラフィー〈2.01〉により試験を行い、それぞれの液のエプレレノンのピーク面積
C-991	↓5	エポエチンアルファ用ポリアクリルアミドゲル	分離ゲルのアクリルアミド濃度を 12.5 % としたポリアクリルアミドゲル
C-991	↓12	振り混ぜる又は	振り混ぜるか又は
C-991	↑17	泳動像	泳動パターン
C-993	↑14	確認試験の試料溶液	確認試験（1）の試料溶液
C-993	↑5~4	各泳動帯	各バンド
C-996	↑2	保存条件 遮光して、-70 °C 以下で保存する。	保存条件 -70 °C 以下で保存する。
C-1004	↑3	ピリジリエチル標準品	ピリジリエチル化標準品
C-1006	↓12	（4）糖鎖プロファイル 別に規定する。	糖鎖プロファイル 別に規定する。
C-1008	↓8	別にエポエチンベータ標準品 1 mL 中に	別にエポエチンベータ標準品に 1 mL 中に
C-1042	↑4	Ｌ-チロジン	Ｌ-チロシン
C-1042	↑4	塩酸 Ｌ-リジン	Ｌ-リシン塩酸塩
C-1043	↓6	チロジンは 0.7 ~ 1.2, リジンは 1.7 ~ 2.2,	チロシンは 0.7 ~ 1.2, リシンは 1.7 ~ 2.2,
C-1044	↓7	チロジン, リジン,	チロシン, リシン,
C-1083	↑7~6	冷却した水 100.0 mL に溶かし, 試料溶液とする。	冷却した水に溶かし, 正確に 100 mL とし, 試料溶液とする。
C-1083	↑6	プロモチモールブルー試液	プロモチモールブルー・エタノール性水酸化ナトリウム試液
C-1083	↑2	水を加えて 30 mL とし,	水を加えて正確に 30 mL とし,
C-1084	↓9~10	（2）の試料溶液 2.0 mL に 2 mol/L 硫酸試液 5 mL 及び水を加えて 100.0 mL とし, これに七モリブデン酸六アンモニウム・硫酸試液 4 mL 及び	（2）の試料溶液 2.0 mL に水を加えて正確に 100.0 mL とし, これにモリブデン硫酸試液 4 mL を加え, 振り混ぜた後,
C-1084	↓14~15	この液 100 mL に七モリブデン酸六アンモニウム・硫酸試液 4 mL 及び塩化スズ（Ⅱ）・塩酸試液 0.1 mL を加え,	この液 100 mL につき,

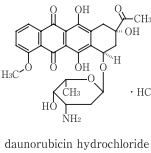
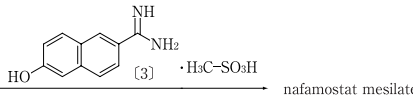
頁	行	誤	正
C-1084	↓18	2.0 mL 及びトルエンスルホンクロロアミドナトリウム三水和物溶液	2.0 mL 及び新たに調製したトルエンスルホンクロロアミドナトリウム三水和物溶液
C-1084	↑18	0.15 mL を加えて混和した後、	0.15 mL を加え、混和した後、
C-1084	↑16	2.0 mL 及びトルエンスルホンクロロアミドナトリウム三水和物溶液	2.0 mL 及び新たに調製したトルエンスルホンクロロアミドナトリウム三水和物溶液
C-1084	↑11	新たに製したデンプン試液	新たに調製した溶性デンプン試液
C-1084	↑10	0.15 mL	削除
C-1084	↑9	直射日光下で	削除
C-1085	↓1	20 mL とする.	正確に 20 mL とする.
C-1085	↓8~9	塩酸ヒドロキシアニモニウム	塩化ヒドロキシルアニモニウム
C-1085	↓10	0.2 g を加え	0.15 g を加え
C-1085	↓12	赤紫色が青紫色に	紫色が青色に
C-1097	↓3~4	770 ~ 920 μg (力価) 以上を含む.	770 ~ 920 μg (力価) を含む.
C-1128	↓8, ↓9, ↓12	塩酸テトラサイクリン	テトラサイクリン塩酸塩
C-1128	↑8, ↑3	硫酸水素テトラブチルアニモニウム溶液	テトラブチルアニモニウム硫酸水素塩溶液
C-1129	↑15	塩酸テトラサイクリン	テトラサイクリン塩酸塩
C-1133	↓17	チロジン	チロシン
C-1133	↓17	塩酸 L-リジン	L-リシン塩酸塩
C-1133	↓18	塩酸 L-アルギニン	L-アルギニン塩酸塩
C-1134	↑3	チロジン	チロシン
C-1134	↑2	リジン	リシン
C-1168	↓5	密封容器. プラスチック製水性注射剤容器を使用することができる.	密封容器. 本品は、プラスチック製水性注射剤容器を使用することができる.
C-1184	↓8	(5) 残留溶媒 別に規定する. (注5)	削除
C-1185	↓6	(注5) 製法により異なるため、承認法として個別に規定している.	削除
C-1218	↑15	本品 1.0 g に希塩酸 20 mL を加え、	本品 1.0 g を希塩酸 20 mL に加え、
C-1218	↑6, ↑3	塩酸ヒドロキシアニモニウム	塩化ヒドロキシルアニモニウム
C-1254	↓4	合わすことができる	合せることができる
C-1254	↓9	性状 本品にはおいはなく、弾力性がある. (注3)	削除

頁	行	誤	正
C-1254	↓13	注4	注3
C-1255	↓5~7	注3 原料の gelatin に品質の悪いものを使用すると、不快臭があり、また弾力性もなくなる。市販のカプセルは一般に無色透明のものであるが、市販医薬品に使用しているものは、ほとんどが不透明か、又は種々の色に着色したものが用いられている。	削除
C-1255	↓8	注4	注3
C-1293	↑19	L-チロジン	L-チロシン
C-1293	↑18	塩酸 L-リジン	L-リシン塩酸塩
C-1293	↑18~17	塩酸 L-アルギニン	L-アルギニン塩酸塩
C-1293	↑8	チロジン	チロシン
C-1295	↓5	チロジン	チロシン
C-1320	製法 式中	carvedolol	carvedilol
C-1334	↓9	硫酸水素テトラブチルアンモニウム	テトラブチルアンモニウム硫酸水素塩
C-1336	↓1, ↓4	硫酸水素テトラブチルアンモニウム	テトラブチルアンモニウム硫酸水素塩
C-1341	↓6	硫酸水素テトラブチルアンモニウム	テトラブチルアンモニウム硫酸水素塩
C-1351	↓2	EP では 5.5 ~ である。	EP では 6.5 ~ 10.5 % である。
C-1360	↓14, ↓15	レゾルシノール	レソルシノール
C-1361	↓11, ↑6	レゾルシノール	レソルシノール
C-1392	↑2	リン酸二水素ナトリウム試液を加えて正確に 100 mL とし、	リン酸二水素ナトリウム試液を加えて正確に 20 mL とし、
C-1423	↓11	pH を 5.5 に調整した液	pH 5.5 に調整した液
C-1440	↓17	定量用塩酸キナプリル	定量用キナプリル塩酸塩
C-1444	↓3	硫酸キニーネ	キニーネ硫酸塩水和物
C-1449	↓5	硫酸キニーネ	キニーネ硫酸塩水和物
C-1449	↓9	キニーネエチル炭酸エステルに対する保持時間	キニーネエチル炭酸エステルに対する相対保持時間
C-1449	↑14	キニーネ硫酸塩	キニーネ硫酸塩水和物
C-1452	↑9	塩酸ジヒドロキニーネ	ジヒドロキニーネ塩酸塩
C-1453	↓3	硫酸キニジン	キニジン硫酸塩水和物
C-1458	↓1	硫酸キニジン	キニジン硫酸塩水和物
C-1469	↑12~11	N-プロムスクシンイミド試液	N-プロモスクシンイミド試液

頁	行	誤	正
C-1492	↑17	◆確認試験	確認試験
C-1492	↑14	る.◆	る.
C-1494	↑1	◆確認試験	確認試験
C-1495	↓2	同様の強度の吸収を認める.◆	同様の強度の吸収を認める.
C-1495	↓4~5	液は澄明であり、その色は次の比較液(1),	液は澄明で、その色は水と同じか、又は次の比較液(1),
C-1495	↓7, ↓9, ↓12	水を加えて	薄めた希塩酸(1 → 10)を加えて
C-1495	↑13	塩酸フェニルヒドラジニウム溶液	塩化フェニルヒドラジニウム溶液
C-1571	↓6	クリンダマイシン塩酸塩(C ₁₈ H ₃₃ ClN ₂ O ₅ S)	クリンダマイシン(C ₁₈ H ₃₃ ClN ₂ O ₅ S)
C-1679	↓14	保持時間約 2.0	相対保持時間約 2.0
C-1709	↓8	換算した脱水物 1 mg 当たり 711 μg (力価) 以上	換算した脱水物 1 mg 当たり 711 ~ 740 μg (力価)
C-1915	↑2	(2) 重金属	◆(2) 重金属
C-1915	↑1	(10 ppm 以下).	(10 ppm 以下).◆
C-1955	↓13	次の方法により含量均一性試験を行うとき、適合する.	質量偏差試験又は次の方法による含量均一性試験のいずれかを行うとき、適合する.
C-1967	↑11	次の方法により含量均一性試験を行うとき、適合する.	質量偏差試験又は次の方法による含量均一性試験のいずれかを行うとき、適合する.
C-2028	↓4	孔径 0.45 μm の	孔径 0.45 μm 以下の
C-2131	↑7 と ↑6 の間	↑7 と ↑6 の間に追加	面積測定範囲：シチコリンの保持時間の約 2 倍の範囲
C-2225	↑4	1.5 以下である.	2.0 以下である.
C-2341	↑1	対応する量を精密に量り、	対応する量を取り、
C-2345	↑13	5-[(2E)-3-phenylprop-2-en-1-yl]	5-[(2E)-3-phenylprop-2-en-1-yl]
C-2374	↑11	yl]-ethyl)-	yl]ethyl)-
C-2427	表	ステアリン酸とパルチミン酸の合計含量	ステアリン酸とパルミチン酸の合計含量
C-2503	製法 式中	sulfadiadine	sulfadiadine silver
C-2543	↓14	注5 (→ 血清性腺刺激ホルモン注5)	注5 b は反応の傾きで、高低 2 用量の比によっても影響を受けるので、用量比の対数 I で除したものである。本ホルモンでは 50 ~ 90 である。
C-2587	↓6	-d ₄	-d ₄

頁	行	誤	正
C-2590	製法 式中	cefazolin	cefazolin sodium
C-2592	↓8	-d ₄	-d ₄
C-2592	↑4	溶媒ピークの後から	溶媒のピークの後から
C-2596	↑2	セファゾリン (C ₁₄ H ₁₄ N ₈ O ₄ S ₃) の秤取量	セファゾリン (C ₁₄ H ₁₄ N ₈ O ₄ S ₃) の量
C-2599	↓8	-d ₄	-d ₄
C-2604	↑3	-d ₄	-d ₄
C-2616	製法 式中	cephaloglycin	cephaloglycine
C-2641	↓3	-d ₄	-d ₄
C-2667	製法 式中 差し替え		 <p>(1) $\xrightarrow[\text{triethylamine}]{\text{i) DCC, ii) 7-ACA(2)}}$ (3) cefotaxime sodium</p> <p>(3) $\xrightarrow[2) \text{NaHCO}_3]{1) \text{HCO}_2\text{H}}$ cefotaxime sodium</p>
C-2689	↑4	(3.0 g, 容量滴定法, 直接滴定)	(3 g, 容量滴定法, 直接滴定)
C-2692	↑9	Cefoperazone Sodium-Sulbactam Sodium for Injection	Cefoperazone Sodium and Sulbactam Sodium for Injection
C-2695	↑16	(3 : 11)	(3 : 1)
C-2815	動態・代謝 式中	cefametzole	cefmetazole
C-2835	↓1	(4)	(3)
C-2849	↑13	本品はゼリー強度 (ブルーム値) を表示する.	本品はそのゼリー強度 (ブルーム値) を表示する.
C-2850	↓2	内容物を直ちに流出しない.	内容物は直ちに流出しない.
C-2852	↓16	過酸化水素の濃度が	過酸化物の濃度が
C-2956	↓7	μL につき,	μL ずつを正確にとり,
C-3057	↓1~2	EP 6.0 では本品を	EP 9.0 では本品を
C-3071	↓14	定量用塩酸チアラミド	定量用チアラミド塩酸塩
C-3083	↓9	(次頁の図)	削除
C-3091	↓13	注7	削除
C-3109	↑10	Nitrogen NF EP Certified Standard Nitrogen	Nitrogen NF EP , Certified Standard Nitrogen

頁	行	誤	正
C-3125	〔動態・代謝〕 〔1〕の構造式 差し替え		
C-3131	↑12	塩酸試験	塩酸試液
C-3145	↑1	試料導入部：スプリットレス注入部	削除
C-3162	↑15	Ethylenediamine (Anhydrous and Hydrate) 〔EP〕	Ethylenediamine (Anhydrous and Hydrate) 〔EP〕
C-3221	↓3	遺伝子組換えヒトインターロイキン-2c	遺伝子組換えヒトインターロイキン-2
C-3222	↓14	L-チロジン	L-チロシン
C-3222	↓15	L-リジン塩酸塩	L-リシン塩酸塩
C-3226	↓4~5	リン酸リボフラビンナトリウム溶液	リボフラビンリン酸エステルナトリウム溶液
C-3228	↑14~13	予備試験を行い、テトラサイクリン塩酸塩	予備試験を行い、1 mL 中にテトラサイクリン塩酸塩
C-3235	↓12	pH <2.54> 本品 1 個の内容物を水 1 mL に溶かした液の pH は 7.0 ~ 7.7 である。	pH 別に規定する。
C-3252	↓6	Deferoxamine Mesylate	Deferoxamine Mesilate
C-3260	↑15	210℃	235℃
C-3263	↓2	「テプレノン」0.1 g に対応する量にエタノール (99.5) 10 mL を加えて	「テプレノン」0.1 g に対応する量を取り、エタノール (99.5) 10 mL を加えて
C-3267	↑6	硫酸水素テトラブチルアンモニウム	テトラブチルアンモニウム硫酸水素塩
C-3299	↓6	(3) 残留溶媒 別に規定する。〔注5〕	削除
C-3299	↑11	〔注5〕 製法により異なるため、承認法として個別に規定している。	削除
C-3322	↑8 と ↑7 の間	↑8 と ↑7 の間に追加	微生物限度 <4.05> サルモネラ及び大腸菌を認めない。
C-3322	↑2	ナトリウム (Na) の含量 (%)	ナトリウム (Na) の量 (%)
C-3345	↓2, ↑9	ドキシサイクリン塩酸塩	ドキシサイクリン塩酸塩水和物
C-3345	↓3	0.01 mL 塩酸試液	0.01 mol/L 塩酸試液

頁	行	誤	正
C-3358	相互作用 daunorubicin hydrochloride の構造式 差し替え	 <p>daunorubicin hydrochloride</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. MeOH/dioxane; Br₂/CHCl₃ 2. HCOONa 3. pH 3 4. extraction with CH₂Cl₂ at pH 8.6 5. MeOH/HCl <p style="text-align: right;">doxorubicin hydrochloride</p>
C-3412	↓10	分包したものは、	分包品は、
C-3445	↓13	(4) 残留溶媒 別に規定する。 〔注5〕	削除
C-3445	↑2	〔注5〕 製法により異なるため、承認法として個別に規定している。	削除
C-3488	↑13	(3) 残留溶媒 別に規定する。	削除
C-3494	↓5	monohydrogenphosphate	monohydrogen phosphate
C-3544	↓11	methyl 3,4,5-trimethoxybenzoate [1]	methyl 3,4,5-trimethoxybenzoate [4]
C-3544	製法 式中	[1]	[4]
C-3632	↓1~2	〔副作用〕 頻度の高いものとしては、(点眼時) 散瞳, 調節近点延長, 乾燥感などがあり, その他, 過敏症状などに注意が必要である。	〔副作用〕 (→ ナファゾリン塩酸塩)
C-3638	製法 式中 差し替え		 <p style="text-align: right;">nafamostat mesilate</p>
C-3770	↓6	[5743-47-5]	[63690-56-2]
C-3845	製法 式中	bacampicillin	bacampicillin
C-3925	↓3	標準溶液 (2) 2 μL ずつを	標準溶液 (2) 4 μL ずつを
C-4033	↑10	平均分子量として 50 万 ~ 120 万又は	平均分子量として 50 万 ~ 149 万又は
C-4034	↓11	極限粘度は, 10.0 ~ 19.5 dL/g 又は	極限粘度は, 10.0 ~ 24.9 dL/g 又は
C-4034	↑18	(4) 残留溶媒 別に規定する。	削除
C-4034	↑17	(5)	(4)
C-4034	↑8	(6)	(5)
C-4034	↑5	(7)	(6)
C-4035	↓5	(8)	(7)
C-4035	↓10	(9)	(8)
C-4038	↑2	表示量の 90 ~ 110 %	表示量の 90.0 ~ 110.0 %
C-4056	↓14~19	検出器: 紫外吸光度計 (測定波長:	定量法 (1) ピオグリタゾン塩酸塩の試

頁	行	誤	正
		228 nm) カラム：内径 4.6 mm、長さ 5 cm のステンレス管に 3 μm の液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充填する。 カラム温度：25℃ 付近の一定温度 移動相：pH 4.0 の 0.05 mol/L リン酸塩緩衝液/アセトニトリル混液 (1 : 1) 流量：ピオグリタゾンの保持時間が約 2.3 分になるように調整する。	験条件を準用する。
C-4057	↓10~16	検出器：紫外吸光光度計（測定波長：228 nm) カラム：内径 4.6 mm、長さ 5 cm のステンレス管に 3 μm の液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充填する。 カラム温度：25℃ 付近の一定温度 移動相：リン酸二水素ナトリウム二水和物 7.80 g を水に溶かし、1000 mL とした後、薄めたリン酸 (1 → 10) を加えて pH 4.0 に調整する。この液 500 mL にアセトニトリル 500 mL を加える。	検出器、カラム、カラム温度及び移動相は定量法 (1) ピオグリタゾン塩酸塩の試験条件を準用する。
C-4260	↓11	薄めたエタノール (99.5) (3 → 10) 溶液	薄めたエタノール (3 → 10) 溶液
C-4309	↑16~15	塩酸 1-(4-ピリジル)ピリジニウムクロリド	1-(4-ピリジル)ピリジニウム塩化物塩酸塩
C-4336	↓6	臭化テトラ <i>n</i> -ブチルアンモニウム	テトラ <i>n</i> -ブチルアンモニウム臭化物
C-4368	↑10 と ↑9 の間	↑10 と ↑9 の間に追加	本品は結晶多形が認められる。
C-4491	↓11	(6) 残留溶媒 別に規定する。	削除
C-4505	↓16	(5) 残留溶媒 別に規定する。(注6)	削除
C-4505	↓17	(注7)	(注6)
C-4506	↓1	(注6) 製法により異なるため、承認法として個別に規定している。	削除
C-4506	↓2	(注7)	(注6)
C-4905	↓11	L-チロジン	L-チロシン
C-4905	↓12	L-リジン塩酸塩	L-リシン塩酸塩
C-4906	↓11	L-リジン	L-リシン

頁	行	誤	正								
C-4920	↑14	Bezafibrate Sustained Release Tablets	Bezafibrate Extended-release Tablets								
C-4938	↓8	<2.0 1>	<2.01>								
C-4949	↑9	392.47	392.46								
C-5001	↑6	本品は定量するとき、換算した乾燥物に対し、表示単位の 90 ~ 110 % を含む。	削除								
C-5038	↓13	分包したものは、	分包品は、								
C-5088	↑14	0.57 μg	0.63 μg								
C-5095	↓6	hemi(<i>N,N'</i> -dibenzylethylenediamine)	hemi(<i>N,N'</i> -dibenzylethylene-1,2-diamine)								
C-5104	↑8	ethyl)aminium	ethylaminium								
C-5110	↑16	に極めて溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。	に極めて溶けにくい。 本品は 0.1 mol/L 塩酸試液に溶ける。								
C-5163	↓6	Poly[(2-oxopyrrolidin-1-yl)ethylene]	Poly[1-(2-oxopyrrolidin-1-yl)ethylene]								
C-5163	↑12	K 値は 25 ~ 90 である。	K 値は 10 ~ 120 である。								
C-5163	↑8	エタノール (95)	エタノール (99.5)								
C-5163	↑1	表示の K 値が 30 又はそれ以下の	表示の K 値が 30 以下の								
C-5165	↓3	1-ビニル-2-ピロリドンの量 (ppm) $= \frac{2.5}{M} \times \frac{A_T}{A_S}$	1-ビニル-2-ピロリドンの量 (ppm) $= \frac{1}{M} \times \frac{A_T}{A_S} \times 2.5$								
C-5165	↓8	液体クロマトグラフィー用オクチル	液体クロマトグラフィー用オクタデシル								
C-5166	↓2	薄めたメタノール/水混液	メタノール/水混液								
C-5167	↑4	85.0 ~ 115 %	85.0 ~ 115.0 %								
C-5167	↑3	90 ~ 108 %	90.0 ~ 108.0 %								
C-5167		$K = \frac{1.5 \log \eta_{rel.} - 1}{0.15 + 0.003 c} + \frac{\sqrt{300 c \log \eta_{rel.} + (c + 1.5 c \log \eta_{rel.})^2}}{0.15 c + 0.003 c^2}$	$K = \frac{1.5 \log \nu_{rel.} - 1}{0.15 + 0.003 c} + \frac{\sqrt{300 c \log \nu_{rel.} + (c + 1.5 c \log \nu_{rel.})^2}}{0.15 c + 0.003 c^2}$								
C-5168	↓1	$\eta_{rel.}$	$\nu_{rel.}$								
C-5168	↓1 と ↓2 との 間	↓1 と ↓2 の間に追加	<table border="1"> <thead> <tr> <th>表示の K 値</th> <th>換算した脱水物の量 (g)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18 以下</td> <td>5.00</td> </tr> <tr> <td>18 を超え 95 以下</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>95 を超えるもの</td> <td>0.10</td> </tr> </tbody> </table>	表示の K 値	換算した脱水物の量 (g)	18 以下	5.00	18 を超え 95 以下	1.00	95 を超えるもの	0.10
表示の K 値	換算した脱水物の量 (g)										
18 以下	5.00										
18 を超え 95 以下	1.00										
95 を超えるもの	0.10										
C-5169	↓6~8	[注2] [USP] [EP] では、K 値が 15 以下の場合、その 85.0 ~ 115.0 % にあり、15 を超える場合、その 90.0 ~ 108.0 % としている。 [USP] の K 値	17 局において、K 値の範囲は薬局方の国際調和を踏まえ、 [USP] [EP] と同一の範囲とされた。								

頁	行	誤	正
C-5279	↑3	の範囲は 18 ～ 95 である. (4) 残留溶媒 別に規定する.	削除
C-5319	↓14	試験菌 <i>Micrococcus luteus</i> ATTC 9341	試験菌 <i>Kocuria rhizophila</i> ATTC 9341
C-5327	↓10	システムの性能は定量法のシステム適合性を準用する.	システムの性能は「ミノサイクリン塩酸塩」の定量法のシステム適合性を準用する.
C-5396	↓12	定量用 <i>dl</i> -塩酸メチルエフェドリン	定量用 <i>dl</i> -メチルエフェドリン塩酸塩
C-5485	↑3~2	メドロキシプロゲステロン	乾燥したメドロキシプロゲステロン
C-5597	↓15	類縁物質の種類	その他
C-5597	↓16	類縁物質 A : (1-[(1-{3-[(1E)-2-(7-クロキノリン-2-イル)エテニル]フェニル}-	類縁物質 A : (1-[(1-{3-[(1Z)-2-(7-クロキノリン-2-イル)エテニル]フェニル}-
C-5713	↓11	ラベプラゾールナトリウム標準品をそれぞれエタノール (99.5) に	ラベプラゾールナトリウム標準品のそれぞれをエタノール (99.5) に
C-5718	↓5	benzimidazole	benzimidazole
C-5724	↓14~17	本品 10 個をとり、その質量を精密に量り、粉末とし、ランソプラゾール (C ₁₆ H ₁₄ F ₃ N ₃ O ₂ S) 25 mg に対応する量を取り、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム試液/メタノール混液 (3 : 1)	本品 10 個をとり、粉末とする。「ランソプラゾール」25 mg に対応する量を取り、希水酸化ナトリウム試液/メタノール混液 (3 : 1)
C-5725	↑15~12	本品 1 個をとり、1 mL 中にランソプラゾール (C ₁₆ H ₁₄ F ₃ N ₃ O ₂ S) 約 0.5 mg を含む液となるように希水酸化ナトリウム試液を加えた後、時々振り混ぜながら超音波処理し、完全に崩壊させる。冷後、1 mL 中にランソプラゾール (C ₁₆ H ₁₄ F ₃ N ₃ O ₂ S) 約 0.15 mg を含む液となるようにアセトニトリルを加えて正確に V mL とする。	本品 1 個をとり、希水酸化ナトリウム試液 3V/10 mL を加え、時々振り混ぜながら超音波処理し、完全に崩壊させた後、1 mL 中にランソプラゾール (C ₁₆ H ₁₄ F ₃ N ₃ O ₂ S) 約 0.15 mg を含む液となるようにアセトニトリルを加えて正確に V mL とする。
C-5726	↓5	よく振り混ぜた後、この液にアセトニトリル	よく振り混ぜた後、アセトニトリル
C-5727	↑10~6	1 mL 中にランソプラゾール (C ₁₆ H ₁₄ F ₃ N ₃ O ₂ S) 約 0.5 mg を含む液となるように希水酸化ナトリウム試液を加えた後、時々振り混ぜながら超音波処理し、完全に崩壊させる。冷後、1 mL 中にランソプラゾール (C ₁₆ H ₁₄ F ₃ N ₃ O ₂ S) 約 0.15 mg を含む液となるようにアセトニトリルを加えて正確に V mL とする。	希水酸化ナトリウム試液 3V/10 mL を加え、時々振り混ぜながら超音波処理し、完全に崩壊させた後、1 mL 中にランソプラゾール (C ₁₆ H ₁₄ F ₃ N ₃ O ₂ S) 約 0.15 mg を含む液となるようにアセトニトリルを加えて正確に V mL とする。

頁	行	誤	正
C-5728	↓10~11	よく振り混ぜた後、この液にアセトニトリル	よく振り混ぜた後、アセトニトリル
C-5750	↑10	L-チロジン	L-チロシン
C-5750	↑10	L-リジン塩酸塩	L-リシン塩酸塩
C-5750	↑3, ↑2	リジン	リシン
C-5751	↑13	チロジン	チロシン
C-5751	↑12	リジン	リシン
C-5765	↑3		微生物限度〈4.05〉と、製剤均一性〈6.02〉の順番を入れ替える。
C-5774	↑8~7	臭化テトラデシルトリメチルアンモニウム	テトラデシルトリメチルアンモニウム臭化物
C-5795	↓19	測定する。試料溶液の	測定するとき、試料溶液の
C-5796	↓9	その約 50 mg ずつを	その約 25 mg ずつを
C-5796	↓10	正確に 100 mL とし	正確に 50 mL とし
C-5796	↑13~12	リン酸溶液 (1 → 20)	薄めたリン酸溶液 (1 → 20)
C-5803	↓7	約 50 mg を精密に量り、水に溶かし、正確に 100 mL とし、	約 25 mg を精密に量り、水に溶かし、正確に 50 mL とし、
C-5867	↓7~8	硫酸マグネシウム七水和物	硫酸マグネシウム水和物
C-5867	↑8	硫酸マグネシウム七水和物	硫酸マグネシウム水和物
C-5876	↑8	NN 指示薬 0.05 g	NN 指示薬 50 mg
C-5879	↓8	リンコマイシン及びリンコマイシン B の合計面積	リンコマイシン及びリンコマイシン B の合計ピーク面積
D-1	↑10	エタノール (95.5)	エタノール (99.5)
D-51	↑2	「ウイキョウ」を粉末にしたもの	「ウイキョウ」を粉末としたもの
D-151	カシュウの項目の注と解説を追加する		<p>カシュウ^(注1) Polygonum Root POLYGONI MULTIFLORI RADIX 何首烏</p> <p>本品はツルドクダミ <i>Polygonum multiflorum</i> Thunberg (<i>Polygonaceae</i>) の塊根で、しばしば輪切される。^(注2) 生薬の性状 本品はほぼ紡錘形を呈し、長さ 10 ~ 15 cm、径 2 ~ 5 cm、外面は赤褐色~暗褐色で、粗いしわがある。横切面は淡赤褐色又は淡灰褐色で、中央部に大型の維管束とその回りに小形</p>

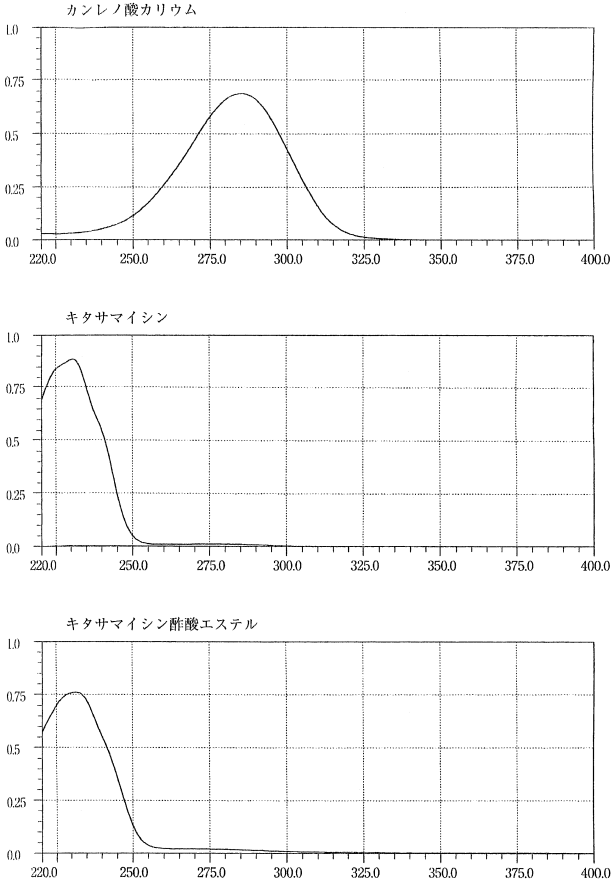
頁	行	誤	正
			<p>の多数の異常維管束が不規則に散在する。質は重く堅い。(注3)</p> <p>本品は特異な弱いにおいがあり、味は渋くてやや苦い。</p> <p>本品は横切片を鏡検〈5.01〉するとき、最外層は数層のコルク層からなり、コルク細胞には褐色の物質が含まれる。皮層は柔組織からなる。各異常維管束は環状の形成層とそれを挟む師部と木部からなる。師部に外接して繊維が見られる。根の中心部は木化している。柔組織中には単粒及び 2 ～ 8 個の複粒のてんぷん粒とシュウ酸カルシウムの集晶を含む。でんぷん粒のへそは明瞭である。</p> <p>(注4)</p> <p>確認試験 本品の粉末 1 g にメタノール 10 mL を加え、15 分間振り混ぜた後、ろ過する。ろ液を蒸発乾固し、残留物をメタノール 2 mL に溶かし、試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー〈2.03〉により試験を行う。試料溶液 5 μL を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/水/メタノール/酢酸(100)混液(200:10:10:3)を展開溶媒として約 7 cm 展開した後(注5)、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長 365 nm)を照射するとき、R_f 値 0.3 付近に青白色の蛍光を発するスポットを認める。(注6)</p> <p>純度試験</p> <p>(1) 重金属〈1.07〉 本品の粉末 3.0 g をとり、第 3 法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液 3.0 mL を加える(10 ppm 以下)。</p> <p>(2) ヒ素〈1.11〉 本品の粉末 0.40 g をとり、第 4 法により検液を調製し、試験を行う(5 ppm 以下)。</p> <p>乾燥減量〈5.01〉 14.0 % 以下(6 時間)。</p> <p>灰分〈5.01〉 5.5 % 以下。</p> <p>エキス含量〈5.01〉 希エタノールエキス 17.0 % 以上。</p>

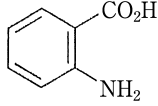
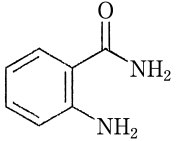
頁	行	誤	正
			<p>貯法 容器 密閉容器。</p> <p>——注——</p> <p>〔注1〕〔14局〕第一追補に記載される前は日本薬局方生薬規格に記載されたものである。</p> <p>〔注2〕輪切りにして乾燥したものが多いが、縦割にしたものも見られる。</p> <p>〔注3〕切面の色が赤褐色のものと同淡褐色のものが見られる。特徴的な異常維管束が観察される。</p> <p>〔注4〕異常維管束の特徴を詳細に記した。シュウ酸カルシウムの集晶も特徴の一つである。</p> <p>〔注5〕〔16局〕第一追補で展開距離を短くした。</p> <p>〔注6〕薄層クロマトグラフィーにより2,3,5,4'-tetrahydroxy-stilbene-2-O-β-D-glucosideの含有を確認している。</p> <p>——解説——</p> <p>〔本質〕 11.13.2 非麻薬性止瀉薬，12.1 造血薬</p> <p>〔名称〕 何首烏 (Heshouwu) 〔中〕，制何首烏 (Zhiheshouwu) 〔中〕</p> <p>〔来歴〕 開宝本草に記載され，その薬能は「癰癤，癰腫を消し，頭部，面部の風瘡を療じ，五痔を治し，心痛を止め，血気を益し，鬢髪を黒くし，顔面を悦澤にする。久しく服すれば，筋骨を長じ，精髓を益し，天年を述べ，老衰せぬ。また婦人の産後，及び帯下の諸疾を治す」と記載されている（新註校定 国澤本草綱目）。日本薬局方外生薬規格に記載されていた。</p> <p>〔原植物〕 <i>Polygonum multiflorum</i> Thunb. ツルドクダミ，何首烏（タデ科）（大井次三郎：日本植物誌，中薬志第一冊）中国の河北，河南，山東，江蘇，安徽，浙江，江西，福建，湖北，湖南，広東，広西，四川，貴州，雲南，その他台湾に分布し，各地で栽培される。日本の各地にも帰化し，栽培もされる。落葉性の蔓性多年草。微細な短毛状の突起がある。茎は蔓性で，長さ1～2 mに達</p>

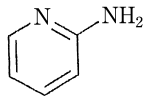
頁	行	誤	正
			<p>し、分枝する。葉は心形又は卵心形で、短鋭尖頭、基部は心形、下縁の両側は円く、長さ 3 ～ 6 cm、幅 2.5 ～ 4.5 cm。やや長い柄があり、鞘はやや短い。花穂は分枝し、頂生の円錐花序をなす。根茎は地中を横に這い、ところどころ太い塊状となる。花期は 8 ～ 10 月、果期は 9 ～ 11 月。</p> <p>産地 主な産地は、中国の河南、湖北、貴州、四川の各省。</p> <p>生産 1720 年代に長崎に渡来し、薬用を目的に栽培されたものが各地で野生化している。温暖湿潤を好み、肥沃で水はけの良い砂質又は粘土質土壤に適している。根茎のついた小塊根による栄養繁殖と、種子繁殖が可能で、いずれも 3 月頃に行う。収穫は 10 月頃で、根茎を掘り取り、輪切りにして乾燥する。生薬には全体に白色のものとやや赤みのあるものがある。</p> <p>類似生薬 首烏藤、夜交藤は、本品の蔓を乾燥させたものである。白何首烏（又は白首烏）は名称が類似しているが <i>Cynanchum wilfordi</i> Hemsl. (ガガイモ科コイケマ) の根で、全く別の植物であり注意が必要。また、本品を区別して赤首烏と呼ぶことがある。</p> <p>成分 アントラキノン類の polygonimitin B¹⁾, chrysophanol, emodin, physcion, emodin-1,6-dimethylether, questin, citreorosein, questinol²⁾, スチルベン配糖体の polygonimitin C¹⁾, フラボンの tricin²⁾ など。</p> <p>1) Zhou, L. X., et al.: <i>Yaoxue Xuebao</i> 29, 107(1994)</p> <p>2) Li, J. and Lim, M.: <i>Zhongcaoyao</i> 24, 115(1993)</p> <p>薬理 エタノール抽出エキスを老化促進モデルマウスに連続 5 日間経口投与するとき、肝及び脳内において加齢と共に上昇する MAO-B 活性の低下が認められている¹⁾。メタノールエキスは食餌により高コレステロールを惹起させたマ</p>

頁	行	誤	正
			<p>ウスの高脂血症を改善することが認められている²⁾. stilbene 配糖体はラットの過酸化脂質投与による肝障害を予防する³⁾. omodin-8-<i>O</i>-β-D-glucopyranoside の示す nootropic 活性はマウスを用いた <i>in vitro</i>, <i>in vivo</i> 試験によりアセチルコリンエステラーゼを阻害することに起因すると認められている⁴⁾.</p> <p>1) 楊 秀偉：中国中薬誌 21, 48(1996)</p> <p>2) 山原條二ら：Proc. Symp. Wakan-Yaku 16, 167(1983)</p> <p>3) 有地 滋ら：日本薬学会 103 年会講演要旨集 269(1983)</p> <p>4) Chen, W. <i>et al.</i>:Zhongcaoyao 32, 39 (2001)</p> <p>適用 漢方処方用薬である．貧血による眩暈や頭痛，不眠を治す処方に配合されている．</p> <p>漢方処方：当帰飲子</p>
D-186	↑18	4-メトキシベンズアルデヒド・硫酸試液を噴霧し，	4-メトキシベンズアルデヒド・硫酸試液を均等に噴霧し，
D-195	↓8～9	別にペオニフロリン標準品（別途水分を測定しておく）	別にペオニフロリン標準品（別途 10 g につき，電量滴定法により水分 <2.48> を測定しておく）
D-215	↑7	15 分間振り混ぜ，遠心分離し，	15 分間振り混ぜた後，遠心分離し，
D-216	↓3	操作条件	試験条件
D-313	↑8	内胚乳	内乳
D-379	↑8	標準試薬	標準試液
D-393	↓15	2 ～ 4 個からなる複粒を混じえ，	2 ～ 4 個からなる複粒が混じり，
D-539	↓1	メタノールを加えて正確に 25 mL	メタノールを加えて 25 mL
D-582	↓13	薄層クロマトグラフィー用シリカゲル（蛍光剤入り）を用いて	薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて
D-591	↓12	薄層クロマトグラフィー用シリカゲル（蛍光剤入り）を用いて	薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて
D-600	↓10	電量滴定方	電量滴定法
D-605	↑1	定量用サイコサポニン b ₂ 標準試液のサイコサポニン b ₂	定量用サイコサポニン b ₂ 標準試液中のサイコサポニン b ₂
D-650	↑10	標準偏差は 1.5	標準偏差はそれぞれ 1.5

頁	行	誤	正
D-663	↑1	105℃ で 1 分間加熱	105℃ で 5 分間加熱
D-679	↓16	6) Malnár, J. : <i>Arzneim. Forsch.</i> 15 , 718 (1965)	削除 (その後の文献番号が 1 つずつ繰り上がる)
D-680	↑9	内乳の小形細胞	内乳の小形の細胞
D-681	↓15	カプサイシン	(E)-カプサイシン
D-730	↓14	薬理	薬効薬理
D-749	↑12	薄めたメタノール (3 → 5) を加えて	薄めたメタノール (3 → 5) に溶かして
D-761	↓12	径約 45 μm の網紋導管,	網紋導管の破片,
D-762	↓15	薄めたメタノール (3 → 5) を加えて	薄めたメタノール (3 → 5) に溶かして
D-763	↓3	薄めたメタノール (3 → 5) を加えて	薄めたメタノール (3 → 5) に溶かして
D-840	↑12	ブシ 1	1) ブシ 1
D-840	↑3	ブシ 2	2) ブシ 2
D-841	↓11	ブシ 3	3) ブシ 3
D-846	↓11	ブシ末 1	1) ブシ末 1
D-846	↓18	ブシ末 2	2) ブシ末 2
D-859	↑14	3 ~ 10 μm	3 ~ 20 μm
D-863	↓10	残留物をメタノール 1 mL に溶かし,	残留物にメタノール 1 mL を加え,
D-869	↓10	芒硝 硫酸ナトリウム十水塩 硫酸ナトリウム	芒硝 硫酸ナトリウム 硫酸ナトリウム十水塩
D-878	↑6	残留物をジエチルエーテル 2 mL に溶かし,	残留物にジエチルエーテル 2 mL を加え,
D-879	↓19	残留物をメタノール 1 mL に溶かし,	残留物にメタノール 1 mL を加え,
D-880	↑4	残留物をジエチルエーテル 2 mL に溶かし,	残留物にジエチルエーテル 2 mL を加え,
D-925	↓9~10	薄めたメタノール (1 → 2) を加えて	薄めたメタノール (1 → 2) に溶かして
D-970	↓9	相対標準偏差は 1.5 % 以下	相対標準偏差はそれぞれ 1.5 % 以下
D-1021	↑16	ブルシンの二水和物移動相溶液	ブルシン二水和物の移動相溶液

頁	行	誤	正
E-40	カンデサルタンシレキセチルの後に、カンレノ酸カリウム、キタサマイシン、キタサマイシン酢酸エステル参照紫外可視吸収スペクトルを挿入		
F-7	↑ 12	フーリエ変換型近赤外分光光度計	フーリエ変換近赤外分光光度
F-10	↑ 6	フーリエ変換型赤外分光光度計	フーリエ変換赤外分光光度計
F-16	↑ 18	高周波誘導プラズマ発光分析法	誘導結合プラズマ発光分析法
F-16	↑ 17	高周波誘導プラズマ質量分析法	誘導結合プラズマ質量分析法
F-46	↓ 12	レーザーの直接光及び反射光は絶対に直視してはならない。	レーザーの直接光及び反射光を絶対に直視してはならない。
F-63	↑ 10	SDS ポリアクリルアミドゲル	ポリアクリルアミドゲル
F-64	↓ 18	例えばグラジエントゲル	例えば濃度勾配（グラジエント）ゲル
F-64	↑ 17	（SDS）	（トリシン SDS）
F-65	↓ 4	タンパク質の場合、見かけの分子量は	タンパク質の見かけの分子量は
F-65	↑ 16	ポリペプチドの分析に比べて非還元条件での SDS-ポリアクリルアミドゲル	ポリペプチドの分析に比べ、非還元条件での SDS-PAGA

頁	行	誤	正
F-65	↑10	この二種のゲルは	この二種類のゲルは
F-67	↓1	表に示した	表 1 に示した
F-67	↑8	100 °Cに設定ブロックヒーター	100 °Cに設定したブロックヒーター
F-68	↓2	泳動緩衝液を	SDS-PAGE 泳動緩衝液を
F-71	↓15	ラウリル硫酸ナトリウム	ドデシル硫酸ナトリウム
F-71	↓19	ラウリル硫酸ナトリウム	ドデシル硫酸ナトリウム
F-71	↑7	アシッドブルー 83	クーマシーブリリアントブルー R-250
F-75	↓2	$\left(\bar{\mu}_{ep} = \frac{1}{2}(\mu_{epb} + \mu_{epa})\right)$	$\left\{\bar{\mu}_{ep} = \frac{1}{2}(\mu_{epb} + \mu_{epa})\right\}$
F-83	↓2	$R_s = \left(\frac{1.18 (t_{R2} - t_{R1})}{W_{h1} + W_{h2}}\right)$	$R_s = \left\{\frac{1.18 (t_{R2} - t_{R1})}{W_{h1} + W_{h2}}\right\}$
F-84	↓7	(オリゴ糖分析・糖鎖プロファイリング)	(オリゴ糖分析/糖鎖プロファイリング)
F-84	↓16~17	オリゴ糖分析について	オリゴ糖分析/糖質プロファイル法について
F-84	↑10	タンパク質当たり	タンパク質 1 モル当たり
F-85	↑1	1-フェニル-3-メチル-5-ピラゾロン	3-メチル-1-フェニル-5-ピラゾロン
F-86	↓9	o-フェニレンジアミン	1,2-フェニレンジアミン
F-86	↑11	用いられることが多い. 各単糖を	用いられることが多く, この場合, 各単糖を
F-86	↑8	システム適合性溶液	システム適合性試験用溶液
F-88	↑4	1-フェニル-3-メチル-5-ピラゾロン	3-メチル-1-フェニル-5-ピラゾロン
F-88, 90	↑1, ↓1	一般的な誘導体化剤及びその利用される分析法を示す.	一般的な誘導体化剤及びこれに適した分析法を示す.
F-90	表 2	2-アミノ安息香酸の構造式差し替え	
F-90	表 2	2-アミノベンズアルデヒドの構造式差し替え	

頁	行	誤	正
F-90	表 2 2-アミノ ピリジンの 構造式 差し替え		
F-90	↑12	プロファイリング	プロファイル法
F-91	↑6	エキソグリコシダーゼ消化	エキソグルコシダーゼ又はエンドグリコシダーゼ消化
F-91	↑3	糖質の特性解析に利用されるエキソグリコシダーゼの例	糖質の構造解析に利用されるエキソグリコシダーゼ及びエンドグリコシダーゼの例
F-94	↑1	* ¹ 例：生物学的製剤基準及び薬局方医薬品各条	◆* ¹ 例：生物学的製剤基準及び薬局方医薬品各条◆
F-100	↓8～9	◆※1 例：生物学的製剤基準及び薬局方医薬品各条。 ※2 試液の調製において色素の純度が重要である。	削除
F-144	↓19	検体中の標準配列の最小の CFU 値等を	検体中の標準配列に対応する最小の菌濃度 (CFU 等) を
F-148	↓11	化学耐性	有機溶媒耐性
F-165	↓15	MALDITOF	MALDI TOF
F-179	表 2 右 下カラム	・電子ビーム測定装置	・電子ビーム監視装置
F-180	↑4	影響を及ぼす変更を行う場合、	影響を及ぼす変更には、
F-185	↓18	化学薬品を用いて清拭、	化学薬品を用いた清拭、
F-186	↑12	中和 ¹⁻³⁾ する。	中和 ¹⁾ する。
F-187	↓1	実際に使用する濃度の	接種菌が乾燥する前に実使用濃度の
F-188	↑13	ユーティリティなど、	ユーティリティなどについて、
F-188	↑7	事前に適合性を検討する	事前に材質適合性を検討する
F-190	↓6	参考資料	5. 参考資料
F-195	↑14	計数・計量しがたい	計数・計量、同定しがたい
F-196	↓2	新手法の原理	微生物迅速試験法の原理
F-196	1.測定対象及び測定原理	検出対象	測定対象
F-197	表中	インピーダンス法 増殖能 (電気的特性)	インピーダンス法 増殖能 (電気特性)

頁	行	誤	正
F-198	↓12	バイオバーデン、	バイオバーデン試験、
F-202	↓6	場合がある。	場合がある。原料生薬に対する微生物限度はその原料が供される工程、要望される品質規格の原料であることを考慮に入れたリスク評価に基づき設定する。
F-203	表 3		表 3 の終わりに ◆ を入れる
F-206	↑2	平板培地に接種する。試験製剤の適切な希釈段階は、	ペトリ皿に分注する。試験製剤の希釈段階は、
F-210	↓8	U S Pharmacopeia	US Pharmacopeia
F-210	↓10	微生物迅速法	微生物迅速試験法
F-244	↑6	¹ H 分のシグナル	1H 分のシグナル
F-245	↓14	生薬を原料とする製剤	生薬を主たる原料とする製剤
F-248	↑17	市販のアフラトキシン原液	市販のアフラトキシン標準原液
F-253	↓19	US Pharmacopoeia	US Pharmacopeia
F-253	↑8	生薬を主原料として使用する製剤	生薬を主たる原料とする製剤
F-270	トウヒ	<i>Citrus aurantium</i> L. Daidai	<i>Citrus aurantium</i> L. 'Daidai'
F-273	マオウ	<i>Ephedra sinica</i> Staps	<i>Ephedra sinica</i> Stapf
F-279	↓8	あらかじめ装置が設置台に水平であること	あらかじめ装置が水平であること
F-279	↓19	上部の端に当てる。	上部の端に側面に接するように当てる。
F-280	↑5	ASTM E2503-07	ASTM E2503-13
F-283	↑2	嵌合（かんごう）性試験など、	嵌合（かんごう）性試験などにより、
F-289	↑13	参考資料	3. 参考資料
F-291	↑11	製造発売承認申請に	製造発売承認申請等に
F-312	↓13	次のものがそれに相当する。	次のものがそれに該当する。
F-321	3.04 粒度測定法の左のコラム	挿入	Particle Size Determination
F-323	1.2. 方法の左のコラム	Method	Methods
F-333	4.2.1. 判定法 1 の下	挿入	4.2.2. 判定法 2
F-350	第十七改	純度試験（1）アルデヒド	純度試験（3）アルデヒド

頁	行	誤	正
F-356	正日本薬局方のカラム Method 5-Precolumn の上	純度試験 (2) 1-ビニル-2-ピロリドン 純度試験 (3) 過酸化物 純度試験 (4) ヒドラジン 純度試験 (5) ギ酸 純度試験 (6) 2-ピロリドン 挿入	純度試験 (4) 1-ビニル-2-ピロリドン 純度試験 (5) 過酸化物 純度試験 (6) ヒドラジン 純度試験 (7) ギ酸 純度試験 (8) 2-ピロリドン Method 4-Precolumn AQC derivatization general principle 方法 4 AQC プレカラム誘導体化法
F-358	Table 2 Preparation of stacking gel の上	挿入	Table 1 Preparation of resolving gel 表 1 分離ゲルの調製
F-361	Method 5 Interfering substances の上	挿入	Calculations 計算法
F-366	↑4	意思決定ノート	意思決定ノード
F-367	↑1	ハザードが引き起こすリスク	ハザードへの曝露に伴うリスク